



Japan Sporting Equipments Retailers Association

No. 50

編集/発行:日本スポーツ用品協同組合連合会
東京都台東区浅草橋5-8-6 東京スポーツ
〒111-0053 会館 301号室
☎ 03-5829-6490 FAX 03-5829-6491
ホームページ <http://www.jsera.jp/>
E-mail jsera@jsera.jp

(2009/8~2010/7のスローガン)

始めよう もう一度 地域に根ざした スポーツの振興を! BEGIN AGAIN



第10回 定時総会・ 全国(鹿児島)大会を盛大に

JSERA 理事長 小関和夫

10月22日に鹿児島県組合の主管で鹿児島市の城山観光ホテルで開催。午前中に理事会、定時総会、午後に全国大会の式典の部、研修の部、6時45分から三層懇親会が開催された。始めに理事長挨拶の要旨を収録する。



8/30の衆議院選挙で民主党が圧勝し、マニフェストに則り数々の改革に取り組んでいるが地方では戸惑いと混乱も続いているようです。このチェンジが少なくともスポーツの発展育成と私もスポーツ用品業界にとりプラスになることを念願せずにはいられない。鳩山首相が環境問題で、2020年までに1990年対比25%のCO₂削減を世界に公約したが、今や環境問題を考えることなしには毎日の生活もどのような事業も進めることはできません。

アイドリングストップキャンペーン

私もJSERAでは1999年から現在まで10年間に亘りアイドリングストップキャンペーンを実施して来ました。スポーツ用品ビジネスに携わる者として、健康ライフを志向し、いつまでもスポーツができるクリーンな環境を守っていこうということでこれまで3度ステッカーを作り全国の組合員にお願いして車のリアウインドウに貼付しCO₂の削減と地球温暖化防止のためにアイドリングストップキャンペーンを啓蒙してきました。この運動はささやかなものかもしれませんが、地球温暖化問題は地球市民がこぞって取り組むべき緊急の課題であるだけに、今後も地道に継続してまいりたいと考えています。

スポーツ安全対策事業

昨年から進めてきた「スポーツ安全対策事業」についてですが、全国中央会から助成金をいただき専門委員の先生方のご尽力で本年2月に調査研究が終了したが、全国各地で開催予定の講習会はこれからです。

日本スポーツ用品工業会、製品安全協会のご指導をいただきながら、スポーツ器具を使っの事故を可能な限り低減するための講習会では、AED

の操作は勿論、正しいスポーツ器具の販売・使用方法・点検・管理等についての所定のカリキュラムを研修することにより、「スポーツ器具安全販売・管理士」の資格を取得できるよう準備を進めているところです。この資格を持つことで、今後より安全なスポーツ環境の整備に寄与できるだけでなく、スポーツビジネスを推進するときにもプラスになることは間違いありません。

しかしここで忘れてならないことは、そもそもこのスポーツ安全対策事業を始めたきっかけは、野球・ソフトボール・サッカーなどをしている時に、強い打球を胸部に当てたことにより発症する心臓震盪により、すでに13名の子供たちが命を落としているという事実であります。本来楽しいスポーツをすることでこうした事故で命を落とすことは、スポーツ用品販売をなりわいとしている私どもにとってこれほど悲しいことはないわけがあります。人の命ほど尊いものはありません。ましてや、いたいけな子供たちの命においておやであります。そのために、あらためて私どもが販売するスポーツ用具について基本から勉強し、こうした事故を最小限にとどめ、安全なスポーツ環境を整備しようというのが、そもそものスタートであったわけであります。

どうかこの大事な趣旨を皆様の脳裏にしっかりと納めていただきまして、これからの講習会に進んでご参加いただき、スポーツの安全性に対する社会の要請に答えてまいろうではありませんか。

組合創立 50 周年

私どもは丁度この10月で組合創立50周年の佳節を迎えることができました。現在あるのは、先輩たちの努力の賜であり、心から感謝申し上げますと共に、これまでの50年の歴史を回顧し、更にこれから70周年、100周年に向けての発展の契機にしていまいりたいと思っていますところでもあります。

しかし組合の現状は誠に厳しく、組合員の数も年々減少しているのは皆様ご承知のとおりであります。50周年の佳節をお祝いすると共に、何としても減少に歯止めをかけるための努力をしてま

いらねばと強く決意しているところであります。

世界大会で優勝

ここで嬉しいホットニュースを一つ紹介させていただきます。四国高知県のワールドスポーツの松井社長さんが先日スペインで開催されたバドミントンの世界大会、ワールドシニアバドミントン選手権大会で、シングルスで優勝、ダブルスの部で準優勝の快挙を成し遂げられたのであります。松井さんは5年前にマレーシアの大会でも準優勝しており、日本選手権では50、51、52歳の部で3連覇を果たしておられるのであります。しかも、松井さんは本業のワールドスポーツのご商売でも素晴らしくご繁盛をされており、高知県組合の専務理事としての重責も立派に果たされながら、寸暇を惜しんで 激しい世界大会に備えてのトレーニングを毎日欠かさずなされての栄冠でありますだけに、私ども JSERA の誇りとして心から敬意を表し、皆様にご披露させて頂いた次第であります。



新スローガン

第2次小関体制も前半を終了し、あと1年を残すばかりとなりましたが、JSERA への熱い情熱を以って、更なる改革改善を目指して、新しいスローガン「始めよう もう一度 地域に根ざした スポーツの振興を！ BEGIN AGAIN」を合言葉に、全力で取り組んでまいる決意でありますので、なにとぞ皆様の変わらぬご指導ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

JSERA 商標登録完了

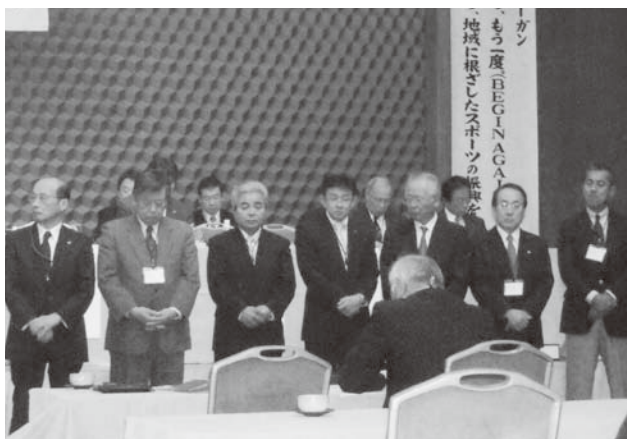
1 年前に連合会の略称を JSR から JSERA に変更したが、本年 5 月 15 日に正式に商標登録ができたのでお知らせいたします。

事務局の移転と事務員の交替

9 / 18 に本会事務局を千代田区小川町から浅草橋のスポーツ会館に移転しましたので、定款の一部変更を総会に諮問して承認いただきました。理由としては

- ①従来の事務局が狭隘（7 坪）のため事務所として不便であること
- ②新事務所は 14 坪あり、役員会、委員会等も開催可能なので、本部機能を持った事務所として有効活用ができること
- ③ toto 事業の遂行上、郵便局から銀行に現金を運ぶためにその距離が近いことが最優先条件でしたが、郵便局が郵貯銀行になりその必要がなくなったこと
- ④旧事務所は 3 階にあったが、エレベーターがなく、階段は非常に狭く急勾配のため事故の危険性があり、その対処が急務であったこと
- ⑤新事務所は、理事会開催場所が同一ビルにあるために事務所との連絡上便利であること
- ⑥スポーツ関係の諸団体、東京スポーツ用品工業協同組合・東京スポーツ用品卸協同組合・日本運動具新報社が同一ビルにあり交流上便利であること

明田さんが 9 / 20 で退職し、新たに田中恵理さんに入っていただきましたので、慣れるまでご迷惑をおかけするかと思います但よろしく願いいたします。



関東甲信越ブロック総会の開催

去る 9 / 16 ~ 17 に神奈川県 of 主管により箱根湯本で、多くのメーカー、卸さんのご出席をいただき総勢 74 名で盛会裏に開催された。

午後 1 時より役員会、総会が相次いで開催されて、所定の議案が滞りなく審議了承された。

講演会はスポーツ用品公取協専務理事の宮地弘孝氏より「専門店の強み」のタイトルで有益なスピーチがなされ、夕刻 6 時より三層懇親会がにぎやかに開催された。

なお、次年度の開催は山梨県組合に決定した。

高校総体・全中・国体売店事業終了

本年は高校総体は奈良県を中心に近畿ブロックの各県で、全中は九州の各県で、国体は新潟県で開催され、売店事業は好成績で無事終了なされましたこと心からご苦労さまでと申し上げ、感謝申し上げる次第でございます。

ありがとうございました。!!

10 / 12 の夕刻、新潟県組合の伊藤理事長より携帯電話が入り、「ただ今無事国体事業を終了しました。成績はまだ細かいことはわかりませんが、昨年度の実績を上回ったと思います。これも組合員の団結の賜と感謝しています。とにかく理事長に報告すべく電話しました。」

体調があまり良くないと聞いていた伊藤理事長が、疲れも見せずいつものお元気な声での心配りが何よりうれしく感謝の思いで胸が詰まりました。

北海道組合 6 名出席

鹿児島全国大会に、最遠隔地の北海道組合さんが 6 名（女子 2 名・男子 4 名）もの出席者を送ってくださいました。「百聞は一見に如かず」ということで、多額の自己負担をいとわず、これからの北海道組合の改革改善のためにも、全国大会で勉強したくてまいりましたとのこと。「本当に来てよかった。帰ったら全員がリポートを書いて私たちの組合に報告します」と言って笑顔でお帰りになられた後ろ姿に、これからの JSERA の明るい発展をみる思いで嬉しくなりました。

事業委員会



ショッピングバック担当 関口孝夫

平成20年(2008年)より、JSERAの専門委員として、事業委員会のショッピングバックの担当をさせて頂いております。埼玉スポーツ用品小売商業協同組合理事長の関口と申します。よろしくお願いいたします。前任の貫井委員長のご指導を頂きながら、2年目を迎えさせて頂いております。

自分自身、単にショッピングバックを使用する立場から、皆様会員に使って頂く立場になり、いささか面食らっているところではありますが、より使いやすく、そしてできるだけ安価に提供でき、なおかつインパクトのあるスポーツにふさわしいショッピングバック創りを目指しつつ、活動を進めていく所存です。ですが現状として、色々なご指摘を頂いているところでもあります。

特に注文から納品、そして振込による支払い方法については見直しを進めているところです。それぞれの会員が直接注文し、支払についても直接振込をお願いし、入金確認後に、直接会員に送品を行う予定であります。またデザインやサイズ等も検討を重ねているところです。ぜひご期待を頂ければと思います。また現状商品につきましては、注文書をJSERAのホームページに掲載させて頂くべく活動中でもあります。

また、特に各県組合におかれましては、インターハイや、国体、そして全中を担当なされる組合の皆様には、それぞれのビックイベントをきっかけとして、ご活用を頂ければ幸いです。

全国の会員の皆様に使って頂けるよう、皆様に愛されるショッピングバックを目指して、前進させて頂きたいと思っております。

今後ともよろしくお願い申し上げます、事業報告とさせて頂きます。

公取協からのお知らせ

日頃は当協議会の運営と公正競争規約の運用にご協力を賜り誠にありがとうございます。

皆様、年末年始のセールの準備に入られていることと存じます。つきましては、公正競争規約を必ずご参照いただき、正確な表示に努めて頂きますよう、徹底を図って頂きますようお願いいたします。

広報委員会



委員長 角前博道

前号で明らかにしました様にホームページの充実を考えています。ただ広報委員会が中心となつて2ヶ月に一度程内容を新しくして行くつもりですが、各ブロック・各県よりの連絡又は資料の提供がないとなかなか良いホームページにはなりません。全国の会員の皆様の協力をお願いする所であります。

JSERA 理事会・役員会 (行事日程)

年	月	日	理事会	役員会	JSERA行事
21	8				全中(九州) インターハイ(奈良・近畿各県)
		1		第1回	(会計監査)
	9	2	第1回		
		16			関東・甲信越ブロック大会(神奈川)
					国体(新潟)
	10	上旬			体育の日活性化(各県組合) 「ボールを贈ろう運動」
		22	第2回		JSERA(定時総会)全国大会(鹿児島) 城山観光ホテル
		23			〃
	11	12		第2回	
		17			中国ブロック大会(鳥取) ホテルニューオータニ鳥取
		18			近畿ブロック大会(大阪) アウィーナ大阪
	12				
22		6			関西新年賀詞交換会
		7			東京新年賀詞交換会
	1	8			名古屋新年賀詞交換会
		9			北陸3県新春賀詞交換会
		27		第3回	
		28	第3回		
		3			大阪卸見本市(1号館・2号館)
		4			正常化対策会議(午前) 大阪卸役員との懇談会(午後)
		16			名古屋スポーツフェア
	2	17			〃
		23	第4回		JSERA50周年記念式典 (ワシントンホテル)
		24			JSERA全国理事長会議(午前) JSEC連絡会議(昼) 正常化対策会議(午後)
	3				
	4	22		第4回	
	5	13	第5回		
	6	1			中部ブロック大会(福井) ユアーズホテル
		7		第5回	
	7	8	第6回		
					北海道・東北ブロック大会(北海道)
	8				全中(中国) インターハイ(沖縄)
	9	1		第1回	(会計監査)
		2	第1回		

活性化委員会



「スポーツ器具安全販売・管理士」
資格制度について

委員長 重森 仁

この資格制度は、昨年度取り組みました「中小企業組合等活路開拓事業」の成果をもとに、①スポーツ実践時に内包される危険を、用具・器具面より可能な限り低減するため。②大型店のパワーゲーム、インターネット等による大幅値引き合戦等に翻弄され厳しい経営を迫られている組合員の経営サポートの切り札の一つとして。③地域におけるスポーツ安全対策のオピニオンリーダーとして自覚と誇りを持ってスポーツ用品販売店を経営できる御旗的支えとして。

の3つを主たる目的としてスタートいたします。

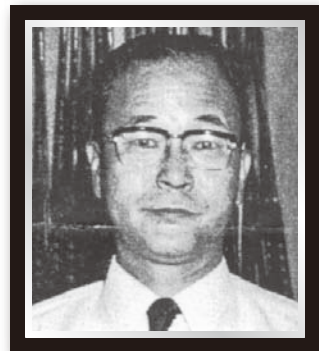
その内容が理事会で承認されたことを踏まえ、全国大会（鹿児島）で会員、メーカー・卸の方々等にアピールいたしました。

①組合員の会社（店）において販売、修理等の経験実績を直近3年以上有すること。（役員、正社員として直近3年以上勤務）②20時間の認定講習を修了すること

などを満たして、資格を認定します。有認定者はスポーツ器具のスペシャリストとして、器具の安全点検、管理指導の場で活躍していただきます。また、販売の面でも有利な立場に立てるようにメーカー、ユーザー等に働きかけます。メーカーにはたとえば、製品に「スポーツ器具安全販売・管理士」による3ヶ月後点検、1年後点検等をセットにした商品の開発をお願いします（資格を持たないと販売が難しくなります）。ユーザーには、特に学校、公官庁等には、この制度を徹底的にアピールし、有資格者よりスポーツ器具（用品）を購入することが安全・安心であるとインプレッションを与えていきます。

来年1月より認定講習会を実施し、3月にはJSERA「スポーツ器具安全販売・管理士」の第1号が誕生する予定です。この制度は産声を上げたばかりです。組合員の皆さんと力を合わせて作り上げていくものです。忌憚のないご意見、ご要望をいただきますとともに、貴地区で認定講習会が実施されますときには、奮ってご参加いただきますようお願いいたします。詳しくは、各組合理事長様にお尋ねいただくか、JSERAのHPをご覧ください。

竹波修一氏を悼んで…



10月13日に、ご逝去された竹波修一氏のご霊前に心から弔意を捧げます。

氏は昭和26年スポーツ店を開業し、岡山県の理事長として又、全運小連の報道部長、理事長、会長として常に熱意あるご意見を発し続けられました。

特に当時のスキー用品の乱売問題に対しましては、改善策を求め続け、公正取引委員会に通われ法律も勉強されたとお聞き致して居ます。

御苦労の結果、スポーツ用品、公正取引規約を創案し、現在のスポーツ用品公正取引協議会の基を築かれました。

又、時にメーカー、卸に対しても、数々の苦言を発せられ、いろんな角度から鋭いメスを入れられる等、スポーツ業界のあり方と三層の発展の基調も説かれました事が、今も思い出されます。

ここに多大なご功績に対しまして、全国の組合員を代表して、私共の大先輩に喪心よりご冥福を祈念する次第であります。

日本スポーツ用品協同組合連合会

理事長 小関 和夫

平成20年(第10期)定時総会

●日 時 平成 21 年 10 月 22 日 (木)

11:00 ~ 12:30

●会 場 鹿児島市 城山観光ホテル

進 行 竹原専務理事

1. 開会の辞 角前博道副理事長

2. 定足数、及び資料の確認 竹原専務理事

《正会員 出席者》 38 名中 37 名出席

岩手県	佐藤佳明	秋田県	五嶋一夫
宮城県	大坪征一	山形県	渡部政雄
福島県	桑原勇健	栃木県	穴戸孝市
群馬県	星野守司	埼玉県	関口孝夫
東京都	貫井清三	神奈川県	関水正章
山梨県	田辺裕人	新潟県	伊藤章
長野県	大工原章介	富山県	木村達郎
石川県	橋本隆一	福井県	竹原和彦
静岡県	堀英男	愛知県	牛田孝士
三重県	角前博道	岐阜県	澤田基朗
滋賀県	重森仁	京都府	竹内健一
大阪府	岸田昌雄	兵庫県	讃岐和子
奈良県	野田詢	鳥取県	尾坂真人
岡山県	山下日出男	広島県	渡辺健介
山口県	大林哲夫	高知県	美馬義一
福岡県	武宮兼敏	佐賀県	中島紘一
長崎県	松原究	熊本県	田原春勇
大分県	浅利克美	宮崎県	岩満一臣
鹿児島県	丸山修		

《賛助会員》 9 名中 7 名出席

北海道	石田豊明	千葉県	伊藤和義
和歌山県	有家輝明	香川県	篠原正知
徳島県	笹倉泰治	愛媛県	谷井正史
沖縄県	大嶺 信		

3. 理事長挨拶 小関和夫

4. 議長選出 武宮兼敏副理事長

5. 議事録作成人指名 議長から竹原専務理事を指名

6. 議案審議

第 1 号議案 平成 20 年度事業報告承認の件

・小関和夫理事長が平成 20 年度事業を報告
(満場一致で議決)

第 2 号議案 平成 20 年度決算報告並びに監査報告

・矢野理事(会計)から平成 20 年度決算報告
・澤田監事から監査意見報告
(満場一致で議決)

第 3 号議案 平成 21 年度事業計画(案)承認の件

・小関和夫理事長が平成 21 年度事業計画(案)を報告
(満場一致で議決)

第 4 号議案 平成 21 年度収支予算(案)承認の件

・矢野幸太郎理事(会計)から平成 21 年度収

支予算(案)を報告

(満場一致で議決)

第 5 号議案 平成 21 年度賦課金額、徴収方法承認の件

・矢野理事(会計)から平成 21 年度賦課金額徴収方法を報告

(満場一致で議決)

正会員の一所属議員につき賦課金 5,000 円と教育、情報賦課金 1,000 円を、賛助会員については会費として 6,000 円を各都道府県の組合にて徴収し、振込むものとする

第 6 号議案 平成 21 年度借入最高限度額決定承認の件

・矢野理事(会計)から平成 21 年度最高限度額設定の報告

(満場一致で議決)

平成 21 年度借入最高限度額は 50,000,000 円とする

第 7 号議案 平成 21 年度理事並びに監事の報酬額決定の件

・矢野理事(会計)から平成 21 年度理事並びに監事の報酬額を報告

(満場一致で議決)

役員報酬額は 0 円とする

第 8 号議案 一部定款変更の件

・小関理事長から本会事務所の移転に伴い、定款第 1 章第 4 条「事務所の所在地」の変更について、定款の一部変更の件でその理由と共に報告

・正会員 38 名中 37 名の出席と 1 名の委任を確認(全員起立し議決)

〈旧〉第 4 条 本会の事務所を東京都千代田区に置く

〈新〉第 4 条 本会の事務所を東京都台東区に置く

第 9 号議案 その他

1. 九州ブロック専任理事補充の件

武宮議長(福岡県理事長)から九州ブロック役員会の推薦理事として笹渕信嘉氏が本日朝の JSERA 理事会で承認されたことを報告

(満場一致で議決)

笹渕信嘉氏(九州ブロック顧問)

7. 感謝状授与

①国民体育大会

新潟県スポーツ用品小売商協同組合 伊藤 章

②全国高校総体

奈良県運動用具小売商協同組合 野田 詢

③全国中学選抜体育大会

福岡県スポーツ用品小売商協同組合連合会

武宮 兼敏

佐賀県スポーツ用品協同組合

中島 紘一

長崎県スポーツ用品協同組合

松原 究

熊本県スポーツ用品協同組合

田原 春勇

大分県スポーツ用品協同組合

浅利 克美

宮崎県運動用具商協同組合連合会

岩満 一臣

鹿児島県運動用具小売商協同組合

丸山 修

沖縄県スポーツ用品小売商組合

大嶺 信

鹿児島大会報告

- ④ JSERA 全国大会主管
三重県スポーツ用品協同組合 角前 博道

8. 報告事項

- ①スローガン発表
「始めよう もう一度 地域に根ざした
スポーツの振興を！ BEGIN AGAIN」
- ②次期開催県について
奈良県 平成 22 年 10 月 20 日（水）
檜原ロイヤルホテル
- ③委員会報告
活性化委員会（重森委員長）
JSERA「スポーツ器具安全販売・管理士」制度の件

9. 閉会の辞 貫井清三副理事長



日本スポーツ用品協同組合連合会 (JSERA) 全国大会 式次第

〈22 日（木）〉

12：30 昼食 エメラルドホール（4F）

12：50～13：20

受付（来賓・卸・メーカー）

《式典の部》

13：30～14：50 進行 山野 真理

①開会の辞 鹿児島県副理事長 二川 國廣

②国歌斉唱 全員にて

③物故者黙祷

④主管県挨拶

鹿児島県運動具小売商協同組合理事長 丸山 修

⑤ JSERA 理事長挨拶

⑦ JSERA 功労者表彰

No.	所属組合名	氏 名	店 名
1	山形県スポーツ用品 小売商業協同組合	本間喜美子	(有)ホンマスポーツ
2	栃木県スポーツ 用品販売協同組合	阿部 捷也	(株)アベスポーツ
3	埼玉県スポーツ用品 小売商業協同組合	青柳 征文	(株)マインスポーツ
4	神奈川県運動具商 協同組合	坂井 睦春	(株)五丸屋スポーツ
5	石川県スポーツ 用品協同組合	長谷川 進	(有)ハセガワスポーツ
6	福井県スポーツ 用品協同組合	野辺スズエ	(有)スポーツガイド 野辺
7	静岡県スポーツ 用品商業協同組合	海老江章夫	(有)中央スポーツ店

8	兵庫県運動用品 商業協同組合	讃岐 和子	スポーツマン
9	和歌山県スポーツ 用品組合	黒田 茂喬	クロダスポーツ
10	熊本県スポーツ 用品協同組合	井 重徳	(資)阿蘇鉄砲火薬 運動具店
11		辻 孝一郎	(株)リーダースポーツ
12	鹿児島県運動具 小売商協同組合	恒吉 憲一	(株)恒吉スポーツ
13	福岡県スポーツ 用品小売商協同 組合連合会	平岡 和也	(株)テツ&サンズ (ライオンズベース ボールショップ)

⑧来賓紹介

- ⑨来賓挨拶 伊藤祐一郎 鹿児島県知事
来賓挨拶 森 博幸 鹿児島市市長
来賓挨拶 羽田野隆司
全国運動用品商工団体連合会会長
来賓挨拶 渡辺 泰男
全国スポーツ用品卸商組合

⑩祝電披露

⑪閉会の辞 鹿児島県副理事長 松下 次男

《研修の部》

15：00～17：10

進行 鹿児島県理事長 丸山 修

15：00～16：00

第一部 講演会

『専門小売業【原点回帰】で勝ち残る経営』

(有)アールイー経営 代表 嶋田 利広

16：10～17：10

第二部 ディスカッション

「私は生き残れるの？業界に」

福岡県 平岡 和也

佐賀県 前田 宏

長崎県 吉井 健

熊本県 浦田 良輔

大分県 木村 譲

宮崎県 堀之内英介

沖縄県 大嶺 侑

17：10 閉会の辞

鹿児島県運動具小売商協同組合副理事長

二川 國廣

《三層懇親会の部》

18：30～20：30 エメラルドホール（4F）

進行 山野 真理

①開宴の辞

鹿児島県運動具小売商協同組合理事長 丸山 修

②乾杯

日本スポーツ用品工業協会専務理事 宮地 弘孝

③アトラクション 奄美島唄

有名焼酎大抽選会 50 本 副理事長 松下 次男

④次期開催県への引き継ぎ

⑤次期開催県理事長挨拶

奈良県運動具小売商協同組合理事長 野田 詢

⑥閉宴の辞

鹿児島県運動具小売商協同組合前理事長 恒吉 憲一



「JSERA リポート」も 発行 No.50 おめでとうございます。

JSERA 顧問 辻本昌孝

「全運小連」の発足以来 50 年という節目の時に、きしくも「JSERA リポート」も第 50 号の発行を迎えたことは真に感慨深く一言お祝い申し上げます。JSR レポートの創刊号が出た時から、もう 13 年にもなるのですね！あの頃は無我夢中でやっておりました。

私は、まず、13 年間で発行された創刊号から 49 号までを綴じた 4 cm 位の厚さになる「JSR レポート」を取り出し、創刊号を開いてみました。

その頃は、まだ任意団体の頃で、まだ「全運小連」と言われていました。当時は、先日お亡くなりになられた魚見秀男さんが会長さんで、私が理事長を担当させていただきました。

会長、理事長制ということは、会長が体外的なことに当たり、理事長が組合の内部的なことに当たるという体制でしたが、実際には、私は当時、まだ 51 歳でしたので、大先輩の魚見さんに色々ご指導頂きながら、ことに当たってゆきました。

当時は、組合員は全国に 2,350 店ありましたが、その頃は、「全運小連」から各組合員に郵便物が来ることなどなかったと思います。私は開かれた「全運小連」を目指し、組合の機関誌を作りたいと思いました。それを全組合員の皆さんにお送りし、情報を共有し、皆で手をつなぎたく、魚見会長、常務理事の皆さんに、お願いし、機関誌発行の「ゴー」のサインを頂きました。

それで、2,350 店の小売店と、小売店を取り巻く、問屋さん、メーカーの本社、営業所に迄、「全運小連」からのレポートを、お送りし、「全運小連」の活動を理解していただき、「全運小連」の活動を応援して頂きたいと思い、年に 4 回、「JSR レポート」をお送りすることを始めました。

今、その創刊号を、開いてみると、大変悲惨な辛い事件ではありましたが、阪神・淡路大震災の被災者に対する応援の義援金のことが載っていました。小売組合、卸、メーカー各関係からそれぞれ大変な金額が集まっていました。それを被災状況に応じて配布され、大変感謝されたと言う報告も載っておりました。県の理事長さんのお話では、全壊のお店にはウン十万円の見舞いというような

話は、県下において、スポーツ業界以外の業界では聞いていないというお話でした。たびたび、「組合にはメリットが無い」と言われますが、私は、業界の小売店が手を握り合い、皆で頑張っていこう、という気持ちの結果であり、これは、組合の大きなメリットであり、ありがたいことだと思いました。

また、創刊号には、「第 1 回、スポーツ用品小売の世界会議」がシカゴで開催された記事がありました。この会議は、初めて開催された会議でしたが、通常でしたら、通訳の問題等あるのですが、現在の小関和夫理事長が当時は常務理事の立場で参加してくださり、日頃から勉強をしておられた英会話を駆使して、日本のスポーツ小売の現状を、英語で講演して下さいました。日本のスポーツ業界の分析に関してはジャスポの宮地専務理事に応援して頂き、準備したことも、懐かしく思い出されました。

「JSR レポート」第 10 号に、「全運小連」が法人化され、「日本スポーツ用品協同組合連合会」となったことが紹介されております。任意団体から、法人化されたのですが、そのきっかけとなったのが、サッカーくじ「toto」の取扱でありました。

第 3 号には、大型量販店の激戦地・釧路の記事がありますが、大型店が更に大きくなっていく中で、「JSR レポート」は私達、零細店が苦勞しながらも、一貫して活性化に努力しながら頑張っている様子がリポートされているように思います。

昔の恐竜は絶滅して、生存していません。それは、恐竜が環境変化に対応出来なかったからです。地球環境は温暖化に向うなど、このところ異常気象が続いておりますが、経済的な環境変化を初め、私達の周りの色々な環境の変化をしっかりと把握して、これからの変化に対応できるよう、「虫の目、鳥の目、魚の目」を持ち、時流に乗り遅れないよう、頑張って生き残りましょう。

この「JSERA リポート」がいつまでも発行が続けられますことを祈念申し上げます。

第 50 号の発行おめでとうございます。



店への思い 「これからの店作りに思う」

石川県スポーツ用品協同組合

甲 サ キ 子 (株)かぶとやスポーツ

私がこの仕事に就いて、早二十五年が経とうとしています。思い起こせば、ただ商売が嫌いではないという安易な理由だけで、この世界へ飛び込んでしまいました。始めはそれまでの環境とのあまりの違いに、頭も体もなかなか慣れなくて、全く見当もつかない仕事の数々にイライラしたり、一日がとても長く感じられたりして、とにかく早く時間が経ってくれないかと思うだけの毎日でした。それだけこの仕事に余裕がなく、追いかけていたのだと思います。さまざまな箇所に回されて、一通りの仕事を覚え、私自身が店の戦力になり得たと実感するまでに4・5年かかってしまいました。

自分が仕事に慣れてくると、会社の様子やお客さんとの接し方、売上を上げる方法など店の運営の方にも目がいくようになりました。

私どもの店は、家内工業に毛の生えたような店です。本当なら、もっと厳しくあたるところも家族だとなかなかそうはできなくて、これまでいろいろな問題にぶつかったり、衝突もありました。そのたびに、家族経営の難しさをいやというほど実感させられました。どんな団体にも良きリー

ダーが必要です。信念を持った良きリーダーがいて、指針を示してくれてこそ、船がまっすぐ進みます。リーダーのあるべき姿をよく考えさせられました。

また、お客さんをつなぐには、何よりも接客態度が重要です。訪れたお店で、気持ちのいい挨拶や笑顔、かゆい所に手の届くような接客を受けると、用事がなくてもまた行こうかなと思います。この二つのことは、店の運営に欠かせない重要項目だと感じるようになりました。

今、世の中の不景気風は、私達の業界にも確実に影響を及ぼし、さらに近年の少子化による児童の激減と、それに伴う低年齢のスポーツ参加が減ったことが、売り上げ減少に拍車をかけ、売り上げは年々下降の一途をたどっています。そこに大型道路工事のあおりをくらって、駐車しにくい環境を余儀なくされてしまいました。このままでは、会社の経営は風前の灯です。誰の目にもそれが感じられ、危機感を共有できたからこそ、今回、新店舗建築へとつなげられたのかも知れません。

新店舗は、11月1日オープンします。私は、この日がかぶとやスポーツ店が、名実ともに生まれ変わるチャンスだと思っています。元気な挨拶は人を幸福にします。元気な挨拶をもらった人は、また元気な挨拶を返すでしょう。そうすることで、幸せが広がります。お客様の幸せを願って、挨拶接客に誠心誠意であたっていくことが、経営を広げることになると信じています。

「変わったのは、外側だけ！」と言われたいよう、社員一同が一丸となって、より良い店づくりに当たっていこうと、強く思っています。



11月よりメールアドレス変更

いつもお世話になっております。メールアドレスの変更をお願いします。

11/1より jserra@jserra.jp です。(現在のアドレスは10/31までになります。)

なお、ホームページも7/21付けで変更になっておりますので、お問い合わせ等ありましたら、宜しく願いいたします。
(<http://www.jserra.jp/>)

JSERA・日本スポーツ用品協同組合連合会事務局

JSERA に一言

福島県運動具商協同組合 副理事長

桑原 勇 健 (バンダイスポーツ)

福島県会津のバンダイスポーツです。日頃はJSERAの活動に御尽力を頂き同じスポーツ店として、有難く感謝しております。

折角の総会に遠く会津から出席いたしますので一言申し述べます。

私は昭和53年に創業を致し現在に至っておりますが、紆余曲折ありました。スキーブーム、ゴルフブーム、はたまたナイキシューズのフィーバー、しかし過去10年を辿って見ますと廃業に次ぐ廃業で我々スポーツ業界は未曾有の不景気に見舞われました。ブームが去った後の後始末、どうにか残ることができたのは大きな事ができなかったのが幸いしているようです。

21世紀は心の時代と叫ばれていますが、どのように対応したらスポーツ愛好者に喜んで頂けるのか勉強が足りません。高齢者との対話は如何あるべきか。先日、東京の巣鴨地藏商店街に妻と行ってきました。溢れんばかりの高齢者で、売ってる商品も高齢者に優しいものがほとんどです。50年前に創業された方はスポーツが大好きで朝から晩までスポーツ選手をサポートされたのではないのでしょうか、こんな想いをもう一度平成に取り戻すことが大切かと思います。まさにお金ではなく心が通う正業を、JSERAのスポーツ店は明るく、対応もよく、修理もしっかりとやってくれる、今度からはここで買うよ、といってくれる店作りにご指導をお願いします。

8/24よりJSERA事務局に勤務

☆田中 恵理

岩手県出身。

以前、ミズノ(株)勤務

中学ではテニス部に所属し、今では信じられないほど日焼けしていました。

2人の息子達はサッカー少年です。

どうぞ宜しくお願いいたします。

JSERA 鹿児島大会に参加して

奈良県運動用具小売商協同組合

専務理事 **黒瀬 秀 雄**

鹿児島組合の皆様お疲れ様でした。大変お世話になり有難うございました。

冒頭にお断り致しますが、この感想文は黒瀬個人のものであり、奈良県組合の見解をまとめたものではありません。

奈良県から11名参加しましたが、終わったばかりでまだ意見集約はなされておられません。講演の内容と、8名の組合員の歴史は拝聴に値する立派なものでした。すべて10年のこのかたたたきこまれてきた教えです。これらの教えを実行してきた方たちが、今まさに組合員として残っているものと思います。憾むべくは屋上屋を重ねたきらいは否めません。

総会・挨拶と式典・講演・8名の所信表明、の4部構成でしたが、3部構成程度が緊張感を持続させ得る限度かと思います。小関理事長はじめJSERA執行部の皆様と意見交換をしたいポイントです。総会での質問が多かったのはほめられます。3部目はもう少し肩のこらない内容が望ましいです。プロの司会は流石。

観光に参加させていただきました。鹿児島組合の方々に至れり尽くせりの対応でした。知覧特攻平和会館は印象的でした。二十歳にも満たない若者の遺書に釘付けになりました。特に昭和一桁前後生まれの方々の思いは一緒だったと思います。30分は短すぎました。バスの集合時間に遅れた数名の方々を責めるわけには参りません。

奈良県には大きなイベント施設はありません。藤原京・平城京と二度都が置かれた歴史と、あるのは多数の神社仏閣です。焦点を絞ってご案内をして差し上げたいものと思います。

ゴルフには参加しませんでしたので省略させていただきます。





指定管理者制度と総合型地域スポーツクラブ

特定非営利活動法人 モア 理事長
石川県スポーツ用品協同組合 理事

辰川 志郎 (有辰川スポーツ 代表取締役)

私は現在、石川県加賀市においてスポーツ店を開業し、36年目に至ります。スポーツ店を開いたのは、長くスポーツ（陸上競技）をしているうちに、現役を退いてからも何かとスポーツに関わる仕事を続けたかったからといえます。現在、総合型地域スポーツクラブ「モア・スポーツクラブ加賀」を運営するとともに、加賀市より「セミナーハウスあいりす」の委託管理を受け、NPO法人モア（MORE）の理事長として日々頑張っているところであります。（MORE）とは、決して現状に満足することなく、より、発展・向上を目指す、という願いをこめて命名しました。ここでは、「指定管理者制度」についてお話しする前に、「総合型地域スポーツクラブ」について述べておきたいと思います。

「総合型地域スポーツクラブ」とは、平成15年9月に、文部科学省の策定した「スポーツ振興基本計画」の下に、幼児から高齢者までの「だれもが、いつでも、どこでも、いつまでも」をスローガンとして、全国の市町に一つ以上の地域密着型スポーツクラブを創るため、地域のスポーツ活動を総合的に支援するために設立されました。

このような中で、私たちも平成17年4月1日より、石川県では16番目の文部科学省の育成指定クラブとして発足し、現在に至っています。今日の日本におけるスポーツの現状は、学校や企業別、あるいは種目別にクラブやサークル等の限られた範囲での活動といった、いわゆる縦割り構造になっており、異なった種目、世代間での交流は少なく、限られたメンバーでの活動となっています。これまでの日本のスポーツは学校体育と企業スポーツによって支えられてきました。しかし、学校では、少子化に伴う部員数の減少や指導者不足により、部活動を単独で維持できない状況や種目を減らさざるを得ない状況が生じています。また、長引く不況の影響により、これまでの日本のトップスポーツを支えてきた企業スポーツはいま、その根幹が大きく揺らいでいます。

スポーツには多くの特性があり、これまでは「競技スポーツ」が主流でしたが、地域や職場での交流を図るための「レクリエーションスポーツ」や健康の維持・増進を図るための「健康スポーツ」等、スポーツに参加する目的は多種多様であります。これらの目的を果たすためにも、これからは「総合型地域スポーツクラブ」の位置づけは大きいといえます。

こうして、総合型地域スポーツクラブ「モア・スポー

ツクラブ加賀」を設立し、活動しているうちに加賀市の公共施設である「セミナーハウスあいりす」が指定管理者制度により、管理運営を民間企業や団体に委託するために公募されるという情報を聞き、いち早く準備を進めました。公募説明会には20に近い団体や企業がいいましたが、最終的には3団体に絞られ、プレゼンテーションの結果、私たちの団体が採用されることになりました。

セミナーハウスあいりすには120名収容の大ホールをはじめ、5つの研修室、8つの洋室、4つの和室があり、宿泊をともなう研修が出来るため、スポーツ合宿や勉強合宿、企業研修など幅広い利用が出来るので、私たちのクラブにはもってこいの施設です。

公の施設は住民サービスのためには必要不可欠な施設であり、収益を目的とするものではありません。しかし、これまでの自治体が主体とする管理運営では、どこの施設でもほとんどが利用率も上がらず、赤字運営をしているのが現状です。こうした中から、平成15年の地方自治法の改正により、公の施設の管理を民間に委託するための「指定管理者制度」が発足しました。「指定管理者制度」とは、第三セクター以外の財団法人や社団法人、NPO法人のほかに、株式会社、有限会社などの民間企業にも公の施設の管理を委託する制度で、これまでの公の施設の管理は、ほとんどは自治体が直接運営するか、第三セクターが運営をするかであったが、民間に開放することによって、よりサービスの向上とコストの削減を目指すことを目的としたものであります。このように、公の施設を管理運営するにあたり、民間パワーでの営業努力の結果、利用率が上がり、コストが削減できれば当然、経常利益を確保することが出来るので、自治体にとっても大幅なコストの削減になるばかりではなく、管理者側にとっても行政に参加し、ビジネスチャンスとなるメリットは大きく広がります。

こうして、公の施設の管理と総合型地域スポーツクラブの運営はお互いに相乗効果をもたらし、地域ではなくてはならない施設として、多くの人々から信頼される団体として社会的な地位を構築しつつあります。これからのスポーツ店の経営は単に商品を販売するだけではなく、スポーツを通じた地域づくり、仲間づくりなど、より多くの人々がスポーツを楽しみ、生活を豊かにすると同時に、スポーツ文化を次世代に受け継ぎ、発展させるための担い手として貢献するべきと考えます。



「やれば必ず出来る精神」

株式会社ザナックス

大阪支店長 青木 泰治

「皆様!こんにちは、(株)ザナックスの青木です。」私の経歴は、昭和56年に(株)ザナックス大阪本社に入社以来、金沢営業所、東京支店、仙台営業所、福岡支店、そして大阪支店とさまざまな地域エリアを担当させて頂きました。その節は多くのお得意先様やメーカー様にお世話になり、心から感謝致しております。

さて、ようやく朝晩が冷え込む季節になりました。皆様も秋の本格商戦の真只中で、生き残りをかけて必死に頑張っておられる事だと思います。市場環境の厳しい中、皆様方は血の滲む努力をされていると思いますが、私は、改めて「目的(テーマ)を明確にして仕事をして行きたい」と考えております。

どんな仕事にも目的が有ります。目的の無い仕事は仕事ではなく、単なる作業だと思います。目的の無い仕事は成果を生み出さず、コストのみを生み出します。私たちは多忙な中で、ついつい仕事の目的を見失ったり、手段をいつの間にか目的に変えてしまったりすることがよくあります。「自分の仕事は何か」を考え続けながら仕事をする事が今一番必要で有り、重要であると感じています。その為には、会社のビジョンや経営理念をしっかり社内で共有し、顧客の「心の満足、安心、便利、楽しさ、夢」の実現の為に、「日々新たな価値を創造」していくことによって、社会へ貢献していきたいと思います。これらの実現の為に、社員教育をしっかりとおこない、お客様にとって無くてはならない会社になりたいと思います。

昨今、ジェイセラーの皆様方も大型店の出店問題やインターネット販売、そして他業種の低価格帯商品との競合、アウトレットブームなどで非常に苦戦されていますが、コアコンピタンス(他社の真似の出来ない独

自性)をしっかりと持たれている小売店様は業績を伸ばされている店も多く有ると聞きます。それらの小売店様は本当に勉強熱心で努力をされておられるようです。「絶対に負けたくない」「絶対に県下一番の店になるんだ」「3年後には今の売上を2倍にしてみせる」と言う目標や目的が明確になって、行動されているからだと思います。

又、メーカーの展示会が各エリアで行なわれていますが、その展示会場でよく目にする光景が御座います。それは、ナショナルチェーンの社員様が大勢で来場し、メーカーの社員から商品説明を聞いている風景です。ナショナルチェーン店の弱みは「知識が無い」、「接客が出来ない」とよく言われますが、その弱みを理解した上で社員を展示会に行かせ、勉強をさせているという姿勢です。相手は「サラリーマンだから限界が有る」と思いますが、是非ジェイセラーの会員の皆様も、どうか負けずに展示会や勉強会に参加され「何かの気づき」を得て頂きたいと思います。

ザナックス社員は全力で得意先様の成長と発展を提案し、WIN—WINの関係強化を促進していく所存です。ザナックス社員は「志」はもちろんの事、

- ①お得意先様に対する改善提案が出来る能力。
- ②日頃からお得意先様の要望、アドバイス、クレームなどを真摯に感じ取り、改善提案や提供できる能力。
- ③商品、アイテム、カテゴリーなどをお得意先様に魅力的にプレゼンテーションできる能力。
- ④自社と他社との機能比較を提案出来る能力を持った社員を育成していきたいと考えております。

ピンチはチャンスです。「やれば必ず出来る精神」で頑張っていきます!

JSERA 事務局移転のお知らせ

この度9月18日をもってJSERAの事務所を移転する事になりました。以前の事務所は、神田小川町の中心にありましたが、会議等行うJSERAセンター的役割が十分に果たせませんでした。移転先の新事務所は、東京卸組合様や東京工組様、そしてスポーツ産業新報社様等私共の最も身近な業界関係者と同じビル内にあります。組合員や業界関係の皆様がいつでも「行きやすい」「集まりやすい」スペースが確保され、必ずや活性化の為の“発信の場”になるものと存じます。下記の新住所をお知らせしますので何とぞ宜しくお願いします。

〒111-0053 東京都台東区浅草橋5-8-6 東京スポーツ会館301号室

(TEL) 03 (5829) 6490 (FAX) 03 (5829) 6491



接客は最高の武器

栃木県スポーツ用品販売協同組合

奈良靖久 (株)奈良スポーツ

2009年は大変に厳しい年です。リストラに輪をかけて報道機関が不景気風をあおっているため財布の紐が硬くなっています。ご多分に漏れず当店も売り上げ確保に危機感を感じています。

20年以上前の私の記事を読み返して見ました。時代遅れの自己満足理論ではと最近気を病んでいます。今年こそは我が店の若返りを図る覚悟を固めているところです。

店頭販売品がお客様にお値打ち感を与える事ができるのか。訪問販売で成果を挙げるのにはどうするか。インターネット通販をどうするか。難題が一杯です。「親切と思いやり」いつの時代でも支持される職業倫理ではと私は信じています。みせかけでお客様を騙すような商売は長続きしません。地方の小売店は地域のお客様に必要と支持されなければ淘汰されてしまいます。

売り上げ増加が難しいとき、効率よい在庫と売れ筋商品の確保が大切です。商品が豊富に見え在庫も増えない見栄えの良い陳列をするために頭を絞っています。幸い当店は20年程前からサイズ別の陳列方法にして、倉庫を持たずに店内に全商品を陳列していますので在庫調整が比較的楽にできます。スニーカーを例にすれば当地区の売れ筋サイズ括りを多くして他のサイズを多少少なくして調整します。

さらにサイズ別の良いところはお客様が自分のサイズで商品をお選びするのでそのサイズが豊富にあるように感じてもらえる点です。同一商品を全サイズ在庫しなくても売りはぐれが少なくてすみます。29～31cmの大きな靴も必要なお客様が選択できる品数を展示してあります。かなり遠くから来店され喜ばれています。さらに子供の靴13～22cmも豊富に揃えて親子の来店者に好評です。

最近中高年の健康志向の高まりはウォーキングシューズ、女性のジムウェアと売り上げは期待出来ませんが、我々スポーツ店よりデパートや靴店にお客様が流れているのが現状です、スポーツ店は力を合わ

せて中高年の売り場創りをしてウォーキングシューズ、女性のジムウェアはスポーツ店で買うのが良いとの認知を得る事が必要と思います。店内にシルバーコーナーを作り買い物が得意な中高年のお客様に気楽に買い物をしていただける工夫をしようと考えています。売れる商品を他の業界に取られないようにするためにはスポーツ店が団結して売り場創りをしなければなりません。健康を売る業界としては絶対やるべきことです。

当店のように零細店は接客を大切にしてお客様に接する事が出来るのは最高の武器です。せっかく来店頂いたお客様とお話もしないで買い物をしていたくのは失礼です。特に熟年以上のお客様は買い物があまり上手くありません、中高年獲得には話し掛け接客は大きな武器です。上手なアドバイスは喜ばれます必ず次の買い物もしていただけます。他店との差別化は良い接客が一番と私は考えています。その手段としてサイズ別陳列、笑顔でお話とアドバイス、お客様に喜ばれるサービスを積極的にする。本当に厳しい環境ですが乗り切らなければなりません。私は大型店対策はと聞かれると、接客と品揃えと答えています。品揃えは大型店にかなわないと思われがちですが、私たちは毎日1個ずつ細やかな仕入れができます。アイテムを増やした楽しい品揃えは得意のはずです。

ユニホームやTシャツのマークの管理に悩みはありませんか、数年前作製品の追加での資料探しに時間と労力が掛かりませんか、当店では数万円の投資で解決するノウハウが出来てきました。素晴らしい管理をしている皆様には役立たないと思いますが、単純な方法なので興味のある方は一緒に研究しませんか。

組合活動は活用すれば大きな力になります、情報の収集、職業倫理、同業者に教えを受けたり、相談したりが比較的容易にできます。老齢に鞭打ち私なりのノウハウでがんばりたいと思っています。



2009 年 第 29 回世界新体操選手権

三重大会を手伝って

三重県スポーツ用品協同組合

角 前 陽 子 (理事長夫人)

2009 年 9 月 7 日より 13 日まで三重県営サンアリーナにおいて、世界新体操選手権大会が、“この美し(うまし) 国の風土が育んだ「おかげさま」の心で訪れる人をあたたかくもてなしましょう” の理念のもと開催されました。

北京五輪で金メダルを取った、ロシアのエフゲニア・カナエワ選手が大会史上初めて、種目別、総合、国別対抗で 6 個の金メダルを獲得し、完全制覇を成し遂げました。個人総合で連覇を目指すウクライナのアンナ・ベッソノワ選手を始め、世界の妖精達の華麗な演技が次々と披露され、すばらしい大会で幕を閉じました。地元だけでなく、日本中の新体操クラブの子供達にも良い刺激と励みを与えた大会となったと思います。

この大会において我々三重スポーツ用品協同組合は、大会の実行委員会より認可を受け、大会の公式グッズ販売のお手伝いをする事となり、大会に参加させていただきました。ロゴ入りの公式グッズは、T シャツ、タオル、トートバック、ピンバッチ、キーホルダー、携帯ストラップ、ペンダント、ボールペン等々 17 種類もありました。一応販売価格は、実行委員会で決めて頂いたそうですが、少し高く設定された感があり、売上としては我々組合員の懸念通り、

あまり良いとは言えない状態でした。中でも外国の選手、監督、スタッフ達は手に取って見てはくれるのですが、中々購入しようとしてくれません。それとカードによる決済が多かったこと、ユーロによる支払いを望まれたこと、等々理由も少し考えられるのですが。一週間販売して思うことは、今の時代是非にでも欲しい物、又大切に使いたい物等々を手に入れるのには随分精力を使う様ですが…。ロゴが入っていなければ、何処にでも売っている様な品物ですからね。改めて物販の難しさを痛感した次第です。

でも組合としては、良いこともあったと思います。それは、長い時間組合員同士が販売という目的で、一緒に活動したり、又雑談したり、食事をしたりする訳ですから、その間に情報の交換をして互いを知り合うことが出来、随分親睦を深めることが出来たと思っています。そういう意味では三重大会のおかげで、私としては感謝の気持ちでいっぱいです。

理事長談

一週間全く家内に世話になりっぱなしで、私としてはただ感謝の気持ちでいっぱいです。

三重県組合理事長 角前 博道

● 公式グッズ 販売風景 ●



スポンサーの看板↓

ONGINES 伊勢名物 お福 三重県スポーツ用品協同組合 岡三証券 長永スポンサー



「米百俵は何処へ」

鳥取県運動用具商協同組合

理事長 尾坂 真人

『政権交代』が現実のものとなった。盛者必衰は歴史の常とは言え、『驕る平氏』の末路と重なる。かつては庶民の代表（北面の武士）であった筈が、二世三世と世襲の内に『殿上人』へと成り上がる。高禄を食む永田町の『公達』たちに民の痛みはわかるまい。そんな嘆きと閉塞感の漂う世相に現れたのが、農耕馬術に勝れた一所懸命の坂東武者（源氏）であったとしたら、今回の政変も強ち驚くに値しない。

「一番の景気対策は子供を増やすこと。子供の為なら親は辛抱してでも財布の紐を緩める。子供が増えない社会こそ異常である」。事ある度に言い続けて来たが、ようやく子供たちへ光が当てられようとしている。期待したい。

子供を持ちたくても持てない家庭もある。『こども手当』は不公平と言う意見もある。ならば、複数の子供を育てた高齢者も、独身で高齢となった人も等しく年金対象者となるが、その年金は、現システムでは若者に支えられる事となる。多少の不公平は均して考えないと『共助共生の社会』は成り立たない。

何れにしても、俗に言う『ハコモノ』から子供を中心とした『ヒト』に財政がシフトされるとしたら、私たちの業界にはプラスと期待される。大きな体制の変化に暫くは混乱が続き、これらの施策が実感されるには今暫くの時間を必要とするだろうが、子供は未来であり私たちの希望である。各々のコミュニティで、相互扶助の下に安心安全を確保し、嬉々として屋外で遊ぶ子供たちの姿が町に溢れる事を念じて、今暫くこの『大変』を堪え忍びたい。危険だからと屋外で遊ばせず、公園でのキャッチボールを禁じる世界は本末転倒だと思いませんか？

『体育の日』（鳥取県組合は10月10日に拘っています。）に地元の児童養護施設を訪ねた。少子化なのに施設に収容される子供は増えている現実を知ってますか？その原因の多くが親による虐待と聞く。親が子を、子が親を危める事件に心を痛める事が多くなった。過剰な市場原理主義に由来と看破する政治家もいるが、社会・家庭・心のゆとりの無さがすべて。豊かさを求めて走り続けた筈の社会が、かえって豊かさを失って立ちすくんでいる。『ゆとり教育』とやらは、誰の為の『ゆとり』だったのだろうか。

虐待に遭った子供は、施設の中でも虐待を繰り返す傾向があるが、贈られたボールはこれらの解消融和に役立っていると感謝され、些少の予算なのにと赤面の至り。

話は『こども手当』に及ぶ。定額給付金の時にも、年に一度も施設に来なかった親が、『貰う権利が有る』と言って給付金を取りに来た。今度は、『こども手当』目当てに子供を引き取りに来る親が増えるのではないか。直接給付では無く、「私達の施設を通してぐれば…」。児童虐待の本質が変わらないだけに園長さんの顔が曇る。果たして政治や行政は、この現実をどれ程把握していると言うのだろうか。

テレビで、経済的困窮で食事を欠かさざるを得ない小学生、病院に通えぬ中学生、授業料滞納の高校生、助けを求める事が出来ず餓死した30代男性の現実を知る。これが『一億総中流』と言われた国の現状ならば、いつから日本はこんな国になってしまったのか。どこから手を付けて行けば解決に向かう事が出来るのか。この間、『経世済民』たる政治は何をして来たと言うのか。『政権交代』も宜なるかなである。



一口残（ひとくちのこす）

JSERA 総務委員長 竹原 和彦

加賀百万石の前田藩では90才以上の高齢者に対して一日五合の米を支給していた。この時代としては思いきった領民への思いやりで、これこそ日本の福祉の原点といえるものかも知れない。

この加賀藩13代の斉泰は、ある時116才になる老人を食事に招いてもてなし、長寿の秘訣を尋ねたところ、その老人は、「一口残（ひとくちのこす）」と書いたそうである。この人は毎日、自分の食べたい気持ちを抑えて食事の量を一口ひかえたのである。そのひかえた分を毎日たくはつ僧に施したが、僧はそれで生活をして、多くの人達に幸せを祈る事になるので「一口残、もって万民を救う」と話したという。要は“腹八分目”という事が長生きの秘訣であり、あわせて社会の幸福にも貢献する事で、自分も精神的な幸せを得るという事ではないだろうか…この「一口残」は、加賀藩の先進的な“敬老政治”があつての事かも知れないが、現在の我々の日常の生活や商売でも、心しなければならぬ事でもあると思う。

この季節、いろんなおいしい“秋の味覚”があるから、自分でコントロール出来なくなつてつい食べ過ぎになってしまう事が多い。又、勧められて飲み過ぎになったりもする…。その精神性にはきつと比べものにならないような大きな違いがあるのだろう…。

今の我々の商売の方法には、余裕がなくなつてしまっているから、どんな仕事でも、たとえ利益がなくても売り上げづくりのためならどんな努力でもする事が正しいと思われている。

こんなに厳しい状況の中では、何でも、がむしゃらにやる事が当然だとしているが、必死にやればやる程、動き回っているだけで、忙しい割には、内容が伴わなかったり、対応の悪さも多くなつたりして、効率の悪い仕事をしたりするような事はないだろうか…「逆も又、真なり」でこういう時にこそ専門店として、仕事もただ多ければ良いと無理して仕事を取る事ばかり考えないで“腹八

分目”の気持をもって、欲しいけれども一口残するような対応の仕方で「その店らしい確かな仕事」をやるような気持も大切だと思う。

健康のために食べる量をひかえるという点では、「一口残」も「ダイエット」も同じだが、過食や飽食の戒めとして、又信頼第一の専門店としての姿勢のあり方の戒めとして、この「一口残」の言葉を大切にしたい。

今は、何よりも仕事の欲しい時だからこそ、時々この言葉を思い出せたらと思っている。

そういえばこんな言葉も思い出される。

「ひとことを、ひかえて守る、老いの城」

編集後記

2016年の夏季五輪、パラリンピックの開催が、ブラジル、リオデジャネイロに決まってしまいました。南米大陸で初めての開催であり、五輪にとっては新しい歴史が刻まれることとなりました。敗因はいろいろ考えられるが、一つには東京都の独り合点というか、独り善がりのところがあつた様に思われる。金メダル16個を含むメダルラッシュに湧いた04年のアテネ五輪、JOCはさらなるスポーツ振興と国際競技力向上につなげるため夏季五輪の招致を呼びかけたのであります。しかしすこし無理な様にも思える点、それは、08年にまだ北京五輪が終わったばかりなのに、同じアジアの東京で8年後に開催とは、かなり無理な所があつた様に思われます。そしてこの開催に我々スポーツ関係者がどれだけ力を結集し、又知恵を出し東京都を支える事が出来たか疑問が残るところであります。でも「地球の将来のための環境五輪」を訴えた15才の三科さんや、その後の世代の為にも、日本そして我々スポーツ関係者は、五輪開催の夢を語り続けなくてはならないと思う。

(H・K)